

岡崎城跡**清海堀** 発掘調査中!!

2020
1/14〔火〕
┆
2/28〔金〕

～ 岡崎城内最大級の堀跡の調査～

調査は平日のみ。雨天中止。
調査状況により期間の変更あり。



2/1〔土〕 現地説明会

1回目 9:30 / 2回目 13:30 (2回とも同じ内容です。)

説明会場 **岡崎城二の丸能楽堂** へ。

当日会場へ (事前申込み不要)。荒天中止 (HP 掲載)。



過去の発掘調査関係

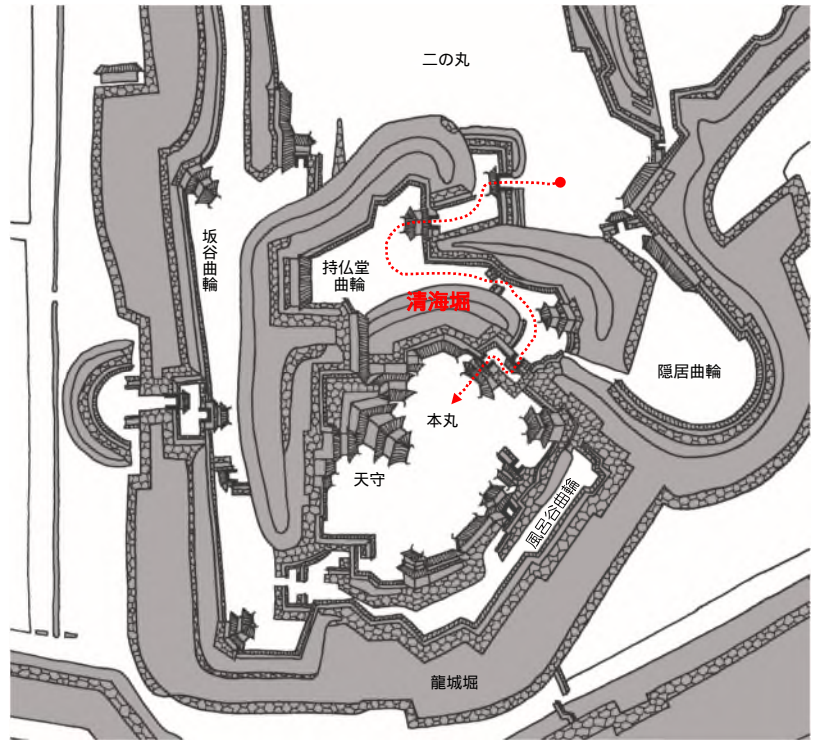


岡崎城跡整備計画
石垣マップ等

本丸周辺の縄張りと清海堀

岡崎城の本丸は河岸段丘の先端に立地しています。本丸南は段丘下の風呂谷曲輪を挟んで龍城堀（水堀）が廻ります。一方、本丸北側は地続きの段丘のため、深い空堀で区画して幾重にも重なる曲輪を造り出しています。清海堀は本丸と持仏堂曲輪を隔てる大規模な空堀で、岡崎城の最初の築城者、西郷頼嗣の法名「清海入道」に因み「清海堀」と呼ばれています。

二の丸から本丸大手門へのルートは持仏堂曲輪へ入り、180度方向転換をして清海堀に沿った幅の狭い通路（帯曲輪）を通らなければなりません。帯曲輪には絶えず本丸からの横矢が掛かる仕組みになっています。こうした本丸周辺の厳重な守りは戦国時代後期に徳川家康が築き上げた縄張りをあらわすともいわれています。



江戸時代の絵図をトレースした図

曲輪 ■ 堀・建物等 --- 二の丸から本丸へのルート

清海堀の石垣

徳川家康が城主の頃の岡崎城は堀と土塁を巧みに配置した堅固な「土づくりの城」でしたが、天正18年(1590)の家康の関東移封により豊臣配下の田中吉政が城主(在城1590-1600年)になって以降、本丸周辺の堀や天守台に石垣が築かれ始めます。清海堀に築かれた石垣もこれ以降のことと考えられます。清海堀の石垣には積み直しの痕跡が見られることから、江戸時代を通じて積み直しがあったと考えられます。

清海堀の発掘調査

現状の清海堀は石垣側で深さ約8mもある大規模なものです。しかし堀底は後世の土砂の堆積が相当あるものと思われます。調査では本来の堀の深さや堀底の形状、石垣基礎部の状況などを確認することを目的としています。

現地説明会について

発掘調査は堀の内部で行っています。危険ですので、清海堀上部の手摺りからのぞき込まないようお願いいたします。調査状況を見られるのは現地説明会時のみとなります。発掘調査期間中はご迷惑をおかけしますが、調査への御理解と御協力のほどお願いいたします。

現地説明会は2月1日(土)に実施します。事前申し込みは不要で、二の丸能楽堂にて行います。

HPにて岡崎城跡に関する情報を発信中！



過去の発掘調査関係



岡崎城跡整備計画石垣マップ等